

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 東北大学

(2) 大学名

東北大学大学院

(3) 大学の位置

〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(オオノ ヒデオ) 大野 英男 (平成30年4月)		
研究科長	(ヒガシタニ アツシ) 東谷 篤志 (平成27年4月)		
専攻長	(ウラベ ジョウタロウ) 占部 城太郎 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命科学研究所 生態発生適応科学専攻 (博士前期課程) 修士(生命科学)	理学関係 農学関係 医学関係	2年	35人	70人	基礎となる学部等

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員		35 (-) [-]				0.80倍	平成30年10月入学を実施予定
志願者数		34 (0) [5]					
受験者数		34 (0) [5]					
合格者数		28 (0) [3]					
B 入学数		28 (0) [3]					
入学定員超過率 B/A		0.80					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。

- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	28 [3] (-)	[] ()					
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	28 [3] (-)	[] ()					

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	28 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合 計	28 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
生命科学研究所 生態発生適応科学専攻 (博士後期課程) 博士(生命科学)	理学関係 農学関係 医学関係	3年	10人	30人	基礎となる学部等

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	10 (-) [-]								0.60倍	平成30年10月入学を実施予定
志願者数	7 (0) [1]									
受験者数	7 (0) [1]									
合格者数	6 (0) [1]									
B 入学者数	6 (0) [1]									
入学定員超過率 B/A	0.60									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。

- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数**で算出してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで**記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	6 [1] (-)	[] ()							
2年次	/		[] ()						
3年次			/		[] ()				
計	6 [1] (-)	[] ()			[] ()				

- (注)
- ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	6人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	6人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命科学研究科 生態発生適応科学専攻（前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【事前伺い時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目A	生命倫理特論	1前	1								兼1
	研究倫理・社会的責任論	1前	1								兼1
共通科目B	バイオ産業基礎論	1前	1								兼1
	環境マネジメント講座	1前	1			1					
共通科目C	脳生命統御科学概論	1前	2								兼10
	分子化学生物学概論	1前	2								兼14
	生態発生適応科学概論	1前		2		11	3				
専門科目	先端生態発生適応科学特論Ⅰ (個体ダイナミクス)	1後・2前		2		5	1	1	5		
	先端生態発生適応科学特論Ⅱ (生態ダイナミクス)	1後・2前		2		4			4		
	先端生態発生適応科学特論Ⅲ (多様性ダイナミクス)	1後・2前		2		3	3		4		
	先端生化学特論Ⅰ	1前・後		2							兼5
	先端生化学特論Ⅱ	1前・後		2		2					兼3
	先端細胞生物学特論Ⅰ	1前・後		2		2					兼3
	先端細胞生物学特論Ⅱ	1前・後		2		1	2				兼2
	先端生態学特論Ⅰ	1前・後		2		3					兼2
	先端生態学特論Ⅱ	1前・後		2		2					兼3
	セミナー(生態発生適応科学)	1・2通	6			12	4	1	13		兼2
課題研究A(生態発生適応科学)	1・2通	10			12	4	1	13		兼2	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目A	生命倫理特論	1前	1								兼1
	研究倫理・社会的責任論	1前	1								兼1
共通科目B	バイオ産業基礎論	1前	1								兼1
	環境マネジメント講座	1前	1					1			
共通科目C	脳生命統御科学概論	1前	2								兼11
	分子化学生物学概論	1前	2								兼13
	生態発生適応科学概論	1前		2		11					兼2
専門科目	先端生態発生適応科学特論Ⅰ (個体ダイナミクス)	1前・後		2		4	1	1	6		兼1
	先端生態発生適応科学特論Ⅱ (生態ダイナミクス)	1前・後		2		4	1		4		
	先端生態発生適応科学特論Ⅲ (多様性ダイナミクス)	1前・後		2		3	2		4		
	先端生化学特論Ⅰ	1前・後		2							兼4
	先端生化学特論Ⅱ	1前・後		2		1					兼4
	先端細胞生物学特論Ⅰ	1前・後		2		2		1			兼5
	先端細胞生物学特論Ⅱ	1前・後		2		1	2				兼5
	先端生態学特論Ⅰ	1前・後		2		6	1				兼1
	先端生態学特論Ⅱ	1前・後		2							兼7
	セミナー(生態発生適応科学)	1・2通	6			11	4	1	14		兼2
課題研究A(生態発生適応科学)	1・2通	10			11	4	1	14		兼2	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) -② 授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育内容の充実のため、「脳生命統御科学概論」の専任教員等の配置を「兼10」から「兼11」へ変更。 ・ 担当教員見直しのため、「分子化学生物学概論」の専任教員等の配置を「兼14」から「兼13」へ変更。 ・ 担当教員見直しのため、「生態発生適応科学概論」の専任教員等の配置を「准教授3」から「兼2」へ変更。 ・ 教育効果向上のため、「先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)」の配当年次を「1後・2前」から「1前・後」に変更。 ・ 助教1名採用及び事前伺いの記載誤りのため、「先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)」の専任教員等の配置を「教授5、助教5」から「教授4、助教6、兼1」に変更。 ・ 教育効果向上のため、「先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス)」の配当年次を「1後・2前」から「1前・後」に変更。 ・ 教育内容の充実のため、「先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス)」の専任教員等の配置に「准教授1」を追加。 ・ 教育効果向上のため、「先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス)」の配当年次を「1後・2前」から「1前・後」に変更。 ・ 担当教員見直しのため、「先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス)」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」へ変更。 ・ 担当教員見直しのため、「先端生化学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼5」から「兼4」へ変更。 ・ 担当教員見直しのため、「先端生化学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2、兼3」から「教授1、兼4」へ変更。 ・ 教育内容の充実のため、「先端細胞生物学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼3」から「講師1、兼5」へ変更。 ・ 教育内容の充実のため、「先端細胞生物学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼2」から「兼5」へ変更。 ・ 教育内容の充実のため、「先端生態学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授3、兼2」から「教授6、准教授1、兼1」へ変更。 ・ 教育内容の充実のため、「先端生態学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2、兼3」から「兼7」へ変更。 ・ 助教1名採用及び事前伺いの記載誤りのため、「セミナー(生態発生適応科学)」の専任教員等の配置を「教授12、助教13」から「教授11、助教14」に変更。 ・ 助教1名採用及び事前伺いの記載誤りのため、「課題研究A(生態発生適応科学)」の専任教員等の配置を「教授12、助教13」から「教授11、助教14」に変更。
--

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	10 科目	0 科目	18 科目	 科目 []	 科目 []	 科目 []	 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{18} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<生命科学研究科 生態発生適応科学専攻（後期課程）>

(1) ① 授業科目表

【事前伺い時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			12	4	1	13		兼2
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			10	4	1	14		兼2
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1					兼2

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ② 授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 助教1名採用及び事前伺い時の記載誤りのため、「課題研究B(生態発生適応科学)」の専任教員等の配置を「教授12、助教13」から「教授10、助教14」に変更。 ・ 教育内容の充実のため、「イノベーションセミナー」の専任教員等の配置に「教授1」を追加。 ・ 教育内容の充実のため、「バイオ産業実践科目」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1、兼2」へ変更。
--

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	2 科目	0 科目	4 科目					
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{4} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	22,010,146㎡	0㎡	0㎡	22,010,146㎡			
	運動場用地	132,573㎡	0㎡	0㎡	132,573㎡			
	小 計	22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,142,719㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,142,719㎡			
(2) 校 舎	専 用	1,152,992㎡	0㎡	0㎡	1,152,992㎡			
	(1,152,992㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(1,152,992㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	3室	0室	57室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	生命科学研究所生態発生適応科学専攻		14 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕				
	生命科学研究所生態発生適応科学専攻	4,142,543 [1,970,596]	84,979 [42,100]	13,431 [13,416]	7,232	25	1	
		(4,142,543 [1,970,596])	(84,979 [42,100])	(13,431 [13,416])	(7,232)	(25)	(1)	
	計	4,142,543 [1,970,596]	84,979 [42,100]	13,431 [13,416]	7,232	25	1	
	(4,142,543 [1,970,596])	(84,979 [42,100])	(13,431 [13,416])	(7,232)	(25)	(1)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	45,481㎡		2,874席		4,563,766冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	7,024㎡		武道場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称		東北大学							備考	
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
文学部	人文社会学科	4	210	—	840	学士(文学)	1.05	平9年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	大11年学部設置法文学部から分立(昭24年度)
教育学部	教育科学科	4	70	—	280	学士(教育学)	1.05	平10年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	昭24年度学部設置
法学部	法学科	4	160	—	640	学士(法学)	1.07	昭24年度	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	
経済学部	経済学科	4	130	3年次10	540	学士(経済学)	1.03	昭24年度	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	大11年学部設置法文学部から分立(昭24年度)
	経営学科	4	130	3年次10	540			昭43年度		
	計		260	20	1,080					
理学部	数学科	4	45	—	180	学士(理学)	1.01	昭24年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	大8年理科大学から理学部となる
	物理学科	4	78	—	312		1.01	平6年度改組・統合		
	宇宙地球物理学科	4	41	—	164			平4年度改組		
	化学科	4	70	—	280		1.10	平7年度改組・統合		
	地圏環境科学科	4	30	—	120		0.99	平4年度改組		
	地球惑星物質科学科	4	20	—	80			平4年度改組(平20年度改称)		
	生物学科	4	40	—	160		0.99	昭24年度		
計		324		1,296	1.02					
医学部	医学科	6	135	—	810	学士(医学)	1.00	昭24年度	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号	大8年医科大学から改称
	保健学科	4	144	—	576	学士(看護学) 学士(保健学)	1.01	平16年度改組		平16年医療技術短期大学部から医学部保健学科となる 平26年度より3年次編入学廃止
	計		279	0	1,386	1.00				

大学の名称		東北大学							備考	
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
歯学部	歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.00	昭40年度	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号	
	創薬科学科	4	60	—	240	学士(創薬科学)	1.07	平18年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	昭47年度学部設置
	薬学科	6	20	—	120	学士(薬学)	1.06			
計			80	—	360		1.06			
工学部	機械知能・航空工学科	4	234	—	936	学士(工学)	1.08	平16年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号	大8年学部設置
	電気情報物理工学科	4	243	—	972		1.02	平16年度改組(平19年度・平27年度改称)		
	化学・バイオ工学科	4	113	—	452		1.00	平16年度改組		
	材料科学総合学科	4	113	—	452		1.03			
	建築・社会環境工学科	4	107	—	428		1.03			
	計			810	—		3,240			
農学部	生物生産科学科	4	90	—	360	学士(農学)	1.05	平4年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	昭22年度学部設置
	応用生物化学科	4	60	—	240					
	計			150	—					
※ 複数の学科を有する学部の学生募集は、経済学部、薬学部及び農学部にあつては学部一括で、理学部にあつては1又は複数の学科毎にそれぞれ行い、学生の所属学科は、第1年次修了時、第2年次又は第3年次に決定する。										
文学研究科	文化科学専攻	5	32	—	64	修士(文学) 修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	0.73	平11年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	学生数は、上段が前期課程で、下段が後期課程である。
			16	—	48		0.64			
	言語科学専攻	5	14	—	28		1.13			
			7	—	21		0.85			
	歴史科学専攻	5	21	—	42		1.02	平12年度改組		
			11	—	33		0.69			
人間科学専攻	5	22	—	44	1.01					
		11	—	33	0.84					

大学の名称		東北大学							備考
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
教育学研究科	総合教育科学専攻	5	45	—	81	修士 (教育学) 修士 (教育情報学)	0.94	平30年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号
			15	—	47	博士 (教育学) 博士 (教育情報学)	0.97		
	教育設計評価専攻	5	—	—	—	修士 (教育学) 修士 (学術)	—	平20年度改組	
			—	—	—	博士 (教育学) 博士 (学術)	—		
法学研究科	法政理論研究専攻	5	10	—	20	修士 (法学) 修士 (学術)	1.10	平12年度改組 (平18年度改称)	宮城県仙台市青葉区川内27番1号
			12	—	52	博士 (法学) 博士 (学術)	0.55		
	総合法制専攻 (法科大学院の課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.65	平16年度改組	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号
	公共法政策専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	公共法政策 修士 (専門職)	0.83		
経済学研究科	経済経営学専攻	5	50	—	100	修士 (経済学) 修士 (経営学)	0.74	平17年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号
			20	—	60	修士 (経済学) 博士 (経営学)	0.50		
	会計専門職専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	80	会計修士 (専門職)	0.67	平17年度	
理学研究科	数学専攻	5	38	—	76	修士 (理学) 修士 (学術) 博士 (理学) 博士 (学術)	1.01	平7年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号
			18	—	54		0.61		
	物理学専攻	5	91	—	182		0.95	平6年度改組	
			46	—	138		0.58		
	天文学専攻	5	9	—	18		1.22		
			4	—	12		0.83		
	地球物理学専攻	5	26	—	52		1.13		
			13	—	39		0.56		
	化学専攻	5	66	—	132		1.05	平7年度改組	
			33	—	99		0.48		
	地学専攻	5	32	—	64		1.35	平6年度改組	
			16	—	48		0.66		

平成30年度より
学生募集停止

大学の名称		東北大学							備考
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
医学系研究科	医科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (医科学) 修士 (学術)	0.96	平15年度改組	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号
	医科学専攻 (博士課程)	4	130	—	520	博士 (医学) 博士 (学術)	1.12	平9年度改組	
	障害科学専攻	5	20	—	48	修士 (障害科学) 修士 (学術)	0.62	平6年度改組	
			9	—	31	博士 (障害科学) 博士 (学術)	1.10	平8年度改組	
	保健学専攻	5	32	—	56	修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (学術) 博士 (看護学)	1.37	平20年度改組	
			12	—	32	博士 (保健学) 博士 (学術)	1.28	平22年度改組	
公衆衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (公衆衛生学)	1.35	平27年度		
歯学研究科	歯科学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (口腔科学) 修士 (学術)	0.91	平16年度	宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号
	歯科学専攻 (博士課程)	4	42	—	168	博士 (歯学) 博士 (学術)	1.00	平12年度改組	
薬学研究科	分子薬科学専攻	5	22	—	44	修士 (薬科学) 修士 (学術) 博士 (薬科学) 博士 (学術)	1.42	平22年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号
			8	—	24		0.95		
	生命薬科学専攻	5	32	—	64		0.82		
			10	—	30		1.00		
医療薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学) 博士 (学術)	0.75	平24年度		
工学研究科	機械機能創成専攻	5	42	—	84	}	1.43	平7年度改組(平16年度改称・平28年度改称)	
			10	—	30		1.40		
	ファインメカニクス専攻	5	45	—	90		1.09		
11			—	33	0.45				

大学の名称		東北大学							備考
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
工 学 研 究 科	ロボティクス専攻	5	42	—	84	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.79	平15年度(平28年度改称)	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号
			11	—	33		0.54		
	航空宇宙工学専攻	5	42	—	84		1.49	平7年度改組	
			11	—	33		1.14		
	量子エネルギー工学専攻	5	38	—	76		1.06	昭33年度(平8年度改称)	
			11	—	33		0.66		
	電気エネルギーシステム専攻	5	32	—	64		1.03	平24年度	
			8	—	24		0.54		
	通信工学専攻	5	31	—	62		1.44		
			8	—	24		0.70		
	電子工学専攻	5	51	—	102		0.88	昭28年度	
			15	—	45		0.32		
	応用物理学専攻	5	32	—	64		1.13		
			11	—	33		0.66		
	応用化学専攻	5	26	—	52		1.24	昭40年度	
			8	—	24		0.95		
	化学工学専攻	5	34	—	68		0.98		
			7	—	21		0.52		
バイオ工学専攻	5	19	—	38	1.23	平4年度(平16年度改称)			
		5	—	15	0.53				
金属フロンティア工学専攻	5	26	—	52	1.21	昭28年度(平16年度改称)			
		7	—	21	0.94				
知能デバイス材料学専攻	5	37	—	74	1.19	昭39年度(昭62年度・平16年度改称)			
		10	—	30	1.20				
材料システム工学専攻	5	30	—	60	1.20	昭44年度(平9年度・平16年度改称)			
		8	—	24	1.16				
土木工学専攻	5	43	—	86	1.14	昭38年度			
		12	—	36	1.49				
都市・建築学専攻	5	45	—	90	1.32	昭38年度(平8年度改称)			
		8	—	24	1.04				
技術社会システム専攻	5	21	—	42	0.99	平14年度			
		13	—	39	0.40				

大学の名称		東北大学						備考	
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
農学研究科	資源生物科学専攻	5	36	—	72	修士 (農学) 修士 (学術) 博士 (農学) 博士 (学術)	1.12	平15年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
			13	—	39		0.63		
	応用生命科学専攻	5	35	—	70		1.09		
			13	—	39		0.68		
	生物産業創成科学専攻	5	38	—	76		1.30		
			11	—	33		0.90		
国際文化研究科	国際文化研究専攻	5	35	—	70	修士 (国際文化) 修士 (学術) 博士 (国際文化) 博士 (学術)	0.89	平27年度改組	宮城県仙台市青葉区川内41
			16	—	32	0.58			
情報科学研究科	情報基礎科学専攻	5	38	—	76	修士 (情報科学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (学術)	0.85	平5年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号
			11	—	33		0.54		
	システム情報科学専攻	5	37	—	74		1.64		
			11	—	33		0.90		
	人間社会情報科学専攻	5	30	—	60		0.76		
			10	—	30		0.80		
応用情報科学専攻	5	35	—	70	1.25				
		10	—	30	1.00				
生命科学研究所	脳生命統御科学専攻	5	36	—	36	修士 (生命科学) 修士 (学術) 博士 (生命科学) 博士 (学術)	0.88	平30年度改組	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号
			10	—	10		0.20		
	生態発生適応科学専攻	5	35	—	35		0.62		
			10	—	10		0.50		
	分子化学生物学専攻	5	35	—	35		1.11		
			10	—	10		0.60		
分子生命科学専攻	5	—	—	—	—	平13年度	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号	平成30年度より学生募集停止	
生命機能科学専攻	5	—	—	—	—			平成30年度より学生募集停止	
生態システム生命科学専攻	5	—	—	—	—			平成30年度より学生募集停止	
環境科学研究科	先進社会環境学専攻	5	40	—	80	修士 (環境科学) 修士 (学術) 博士 (環境科学) 博士 (学術)	1.17	平27年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
			13	—	26		1.38		
	先端環境創成学専攻	5	60	—	120		0.93		
			20	—	40		0.36		

大学の名称		東北大学							備考
既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
医工学研究科	医工学専攻	5	39	—	70	修士 (医工学)	1.27	平20年度	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号
			12	—	32	修士 (工学)	0.82		
教育情報学教育部	教育情報学専攻	5	—	—	—	修士 (教育情報学)	—	平14年度	宮城県仙台市青葉区川内27番1号
			—	—	—	修士 (教育情報学)	—		

平成30年度より学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については, 必ず記入するとともに, 下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<生命科学研究所 生態発生適応科学専攻（前期課程）>

(1) -① 担当教員表

【事前伺い時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (57) <平成30年4月>	専	教授	経塚 淳子 (58) <平成30年4月>
		生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端生化学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端生化学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		倉永 英里奈 (42) <平成30年4月>			倉永 英里奈 (43) <平成30年4月>
		生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端生化学特論Ⅱ 先端細胞生物学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		高橋 秀幸 (62) <平成30年4月>			高橋 秀幸 (63) <平成30年4月>
生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)	生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)				
専	教授	田村 宏治 (51) <平成30年4月>	専	教授	田村 宏治 (52) <平成30年4月>
		生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専任	教授	西谷 和彦 (63) <平成30年4月>	専任	教授	西谷 和彦 (64) <平成30年4月>
		先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)
兼任	講師	西谷 和彦 (63) <平成31年4月>	兼任	講師	西谷 和彦 (64) <平成31年4月>
		先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス)
専	教授	占部 城太郎 (58) <平成30年4月>	専	教授	占部 城太郎 (59) <平成30年4月>
		生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)			生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	彦坂 幸毅 (49) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		河田 雅圭 (59) <平成30年4月> 環境マネジメント講座 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		近藤 倫生 (43) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		牧 雅之 (54) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		千葉 聡 (56) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		熊野 岳 (46) <平成25年7月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		藤井 伸治 (50) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	彦坂 幸毅 (50) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		河田 雅圭 (60) <平成30年4月> 環境マネジメント講座 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		近藤 倫生 (44) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		牧 雅之 (55) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		千葉 聡 (57) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		熊野 岳 (47) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		藤井 伸治 (51) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	鹿野 秀一 (62) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		美濃川 拓哉 (48) <平成30年4月> 生態発生適応科学概論 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	准教授	酒井 聡樹 (56) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		横山 隆亮 (49) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	樽本 悟史 (39) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		梅津 大輝 (41) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	小林 啓恵 (39) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		阿部 玄武 (38) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	黒羽 剛 (40) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	鹿野 秀一 (63) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端生態学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		美濃川 拓哉 (49) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅱ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	准教授	酒井 聡樹 (57) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		横山 隆亮 (50) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) 先端細胞生物学特論Ⅰ セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	樽本 悟史 (40) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		梅津 大輝 (42) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	小林 啓恵 (40) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
		阿部 玄武 (39) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	黒羽 剛 (41) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	牧野 渡 (47) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	小口 理一 (39) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	丸山 真一郎 (38) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	饗庭 正寛 (37) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	米倉 浩司 (45) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	大山 幹成 (47) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	武田 哲 (61) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	中本 章貴 (42) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
兼任	教授	木下 賢吾 (46) <平成30年4月> セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
兼任	教授	谷本 拓 (43) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	牧野 渡 (48) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	小口 理一 (40) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	丸山 真一郎 (39) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	饗庭 正寛 (38) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅱ(生態ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	米倉 浩司 (46) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	大山 幹成 (48) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	武田 哲 (62) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	中本 章貴 (43) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅲ(多様性ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
専	助教	小松 愛乃 (33) <平成30年4月> 先端生態発生適応科学特論Ⅰ(個体ダイナミクス) セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
兼任	教授	木下 賢吾 (47) <平成30年4月> セミナー(生態発生適応科学) 課題研究A(生態発生適応科学)
兼任	教授	谷本 拓 (44) <平成30年4月> 生命倫理特論 研究倫理・社会的責任論 脳生命統御科学概論

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	東谷 篤志 (54) <平成30年4月> バイオ産業基礎論 分子化学生物学概論
兼任	教授	山元 大輔 (63) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	安部 健太郎 (37) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 I
兼任	教授	筒井 健一郎 (45) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	福田 光則 (49) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 II
兼任	教授	杉本 亜砂子 (52) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	松井 広 (43) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 I
兼任	教授	松居 靖久 (57) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	千葉 奈津子 (48) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	小椋 利彦 (58) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	有本 博一 (51) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生化学特論 I
兼任	教授	佐々木 誠 (56) <平成30年4月> 分子化学生物学概論
兼任	教授	山口 信次郎 (48) <平成30年4月> 生命倫理特論 研究倫理・社会的責任論 分子化学生物学概論 先端生化学特論 I
兼任	教授	大橋 一正 (50) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生化学特論 I
兼任	教授	田中 良和 (40) <平成30年4月> 分子化学生物学概論
兼任	教授	津田 雅孝 (62) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生態学特論 II
兼任	教授	南澤 究 (62) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生態学特論 II

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	東谷 篤志 (55) <平成30年4月> バイオ産業基礎論 分子化学生物学概論 先端生態学特論 II
兼任	教授	安部 健太郎 (38) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 I
兼任	教授	筒井 健一郎 (46) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 II
兼任	教授	福田 光則 (50) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 II
兼任	教授	杉本 亜砂子 (53) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 II
兼任	教授	松井 広 (44) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 I
兼任	教授	松居 靖久 (58) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端細胞生物学特論 I
兼任	教授	千葉 奈津子 (49) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論 先端生化学特論 II
兼任	教授	小椋 利彦 (59) <平成30年4月> 脳生命統御科学概論
兼任	教授	有本 博一 (52) <平成30年4月> 分子化学生物学概論
兼任	教授	佐々木 誠 (57) <平成30年4月> 分子化学生物学概論
兼任	教授	山口 信次郎 (49) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生化学特論 I
兼任	教授	大橋 一正 (51) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生化学特論 I
兼任	教授	田中 良和 (41) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生化学特論 II
兼任	教授	津田 雅孝 (63) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生態学特論 II
兼任	教授	南澤 究 (63) <平成30年4月> 分子化学生物学概論 先端生態学特論 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	中 静 透 (61) <平成30年4月>	兼任	講師	中 静 透 (62) <平成30年4月>
		セミナー(生態発生 適応科学) 課題研究A(生態発 生適応科学)			生態発生適応科学概 論 セミナー(生態発生 適応科学) 課題研究A(生態発 生適応科学)

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してく
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・担当教員見直しのため、倉永英里奈教授の授業担当科目を削除。
- ・担当教員見直しのため、高橋秀幸教授の授業担当科目を削除及び追加。
- ・担当教員見直しのため、西谷和彦教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、牧雅之教授の授業担当科目を削除及び追加。
- ・教育内容の充実のため、千葉聡教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、藤井伸治准教授の授業担当科目を削除。
- ・担当教員見直しのため、鹿野秀一准教授の授業担当科目を削除及び追加。
- ・担当教員見直しのため、美濃川拓哉准教授の授業担当科目を削除。
- ・教育内容の充実及び担当教員見直しのため、酒井聡樹准教授の授業担当科目を追加及び削除。
- ・教育内容の充実のため、横山隆亮講師の授業担当科目を追加。
- ・平成30年4月、小松愛乃助教就任。教育課程の充実を図るための担当者増。
- ・担当教員見直しのため、谷本拓教授の授業担当科目を追加。
- ・教育内容の充実のため、東谷篤志教授の授業担当科目を追加。
- ・山元大輔教授就任辞退により、田口友彦教授に変更。
- ・教育内容の充実のため、筒井健一郎教授、杉本亜沙子教授及び松居靖久教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、千葉奈津子教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、有本博一教授及び山口信次郎教授の授業担当科目を削除。
- ・教育内容の充実のため、田中良和教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、高橋聡教授の授業担当科目を削除。
- ・教育内容の充実のため、永田裕二教授の授業担当科目を追加。
- ・担当教員見直しのため、佐藤修正准教授の授業担当科目を削除及び追加。
- ・担当教員見直しのため、安元研一准教授の授業担当科目を削除。
- ・平成30年4月、田中耕三教授、高井俊行教授、小金澤雅之准教授、山方恒宏准教授及び三井久幸准教授就任。授業内容の充実のための担当者増。
- ・教育内容の充実のため、中静透講師の授業担当科目を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5 名	4 名	3 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
12	4	1	13	30	12	4	1	14	31	11	4	1	14	30
(12)	(4)	(1)	(14)	(31)						[Δ1]	[0]	[0]	[+1]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
12	18	0			12	19	0			11	19	0		
(12)	(19)	(0)								[Δ1]	[+1]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告書提出時)の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在(報告書提出時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告書提出時)の状況(B)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D) + (F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計					後任補充状況の集計	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

5 教員組織の状況

<生命科学研究科 生態発生適応科学専攻（後期課程）>

(1) -① 担当教員表

【事前伺い時】			【平成30年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (57) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	経塚 淳子 (58) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	倉永 英里奈 (42) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	倉永 英里奈 (43) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	田村 宏治 (51) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	田村 宏治 (52) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	占部 城太郎 (58) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	占部 城太郎 (59) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	彦坂 幸毅 (49) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	彦坂 幸毅 (50) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	河田 雅圭 (59) <平成30年4月> 起業支援論 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	河田 雅圭 (60) <平成30年4月> イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	近藤 倫生 (43) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	近藤 倫生 (44) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	牧 雅之 (54) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	牧 雅之 (55) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	千葉 聡 (56) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	千葉 聡 (57) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	熊野 岳 (46) <平成25年7月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	教授	熊野 岳 (47) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	藤井 伸治 (50) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	准教授	藤井 伸治 (51) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	鹿野 秀一 (62) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	准教授	鹿野 秀一 (63) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	美濃川 拓哉 (48) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	准教授	美濃川 拓哉 (49) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	酒井 聡樹 (56) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	准教授	酒井 聡樹 (57) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)
専	講師	横山 隆亮 (49) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)	専	講師	横山 隆亮 (50) <平成30年4月> 課題研究B(生態発生適応科学)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	榎本 悟史 (39) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	梅津 大輝 (41) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	小林 啓恵 (39) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	阿部 玄武 (38) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	黒羽 剛 (40) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	牧野 渡 (47) <平成40年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	小口 理一 (39) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	丸山 真一朗 (38) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	饗庭 正寛 (37) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	米倉 浩司 (45) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	大山 幹成 (47) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	武田 哲 (61) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	中本 章貴 (42) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
兼任	教授	木下 賢吾 (46) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
兼任	教授	東谷 篤志 (54) <平成30年4月> イノベーションセミ ナー バイオ産業実践科目

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	榎本 悟史 (40) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	梅津 大輝 (42) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	小林 啓恵 (40) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	阿部 玄武 (39) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	黒羽 剛 (41) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	牧野 渡 (48) <平成40年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	小口 理一 (40) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	丸山 真一朗 (39) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	饗庭 正寛 (38) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	米倉 浩司 (46) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	大山 幹成 (48) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	武田 哲 (62) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	中本 章貴 (43) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
専	助教	小松 愛乃 (33) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
兼任	教授	木下 賢吾 (47) <平成30年4月> 課題研究B(生態発 生適応科学)
兼任	教授	東谷 篤志 (55) <平成30年4月> イノベーションセミ ナー バイオ産業実践科目
兼任	准教授	佐藤 修正 (52) <平成30年4月> バイオ産業実践科目

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	中 静 透 (61) <平成30年4月>
		課題研究B (生態発 生適応科学)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	中 静 透 (62) <平成30年4月>
		課題研究B (生態発 生適応科学)

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してく
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育内容の充実のため、河田雅圭教授の授業担当科目を追加。
- ・平成30年4月、小松愛乃助教及び佐藤修正准教授就任。教育内容充実のための担当者増。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
12	4	1	13	30	10	4	1	14	29	10	4	1	14	29
(10)	(4)	(1)	(14)	(29)						[Δ2]	[0]	[0]	[+1]	[Δ1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
12	18	0			10	19	0			10	19	0		
(10)	(19)	(0)								[Δ2]	[+1]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{30} = \boxed{96.66} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D)+(F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計					後任補充状況の集計	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<生命科学研究科 生態発生適応科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FDは教員会議並びに専攻会議、教員個人評価は評価委員会、授業評価は教務委員会並びに教授会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・教員会議（不定期開催、年2回）、専攻会議（年1回、年度末に定例会議と不定期開催）
- ・教員個人評価会議（不定期、年1回は自己評価報告書の提出）
- ・教授会（年8回、定期開催）、教務委員会（不定期 年4回程度）

c 委員会の審議事項等

教務委員会において、学生の授業評価などのアンケート調査を分析するとともに、それらをもとに、教員の資質の維持向上の方策を議論し、運営機構でさらに審議し、教授会において全教授との審議、報告とともに、教員会議において全教員への方策等を報告し、実践する。

教育活動（研究指導含む）並びに研究活動に関する自己評価を、基幹講座に属する全教員から年1回提出させている。

② 実施状況

a 実施内容

- ・毎年インターネットスクールによる研究不正及び倫理教育のビデオを受講させ、確認テストを実施するなど、公正な研究活動の推進に努めている。
- ・毎年、教員会議においても、研究倫理、研究不正、ハラスメントの問題などについて、また、現代の学生の気質などについて、さらに学生相談体制等についても専門の講師を招き紹介している。

b 実施方法

- ・研究科に所属する全教員参加の教員会議
- ・他部局と合同で新人教育研修会に参加。
- ・本学ISTUインターネットスクールを利用
- ・学生による授業評価等は紙面による

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新人教育は、4月と10月に実施。
- ・教員会議 研究科所属の全教員 平成30年2月2日（金）実施（出席者：約70名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FDの内容を踏まえ、授業改善及び学生への研究指導に活かすよう、改善に取り組んでいる。
- 授業評価の結果を踏まえ、各教員は授業の改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

- a 実施の有無及び実施時期
 - ・有：年1回（2月下旬）
- b 教員や学生への公開状況、方法等
 - ・教員：教授会 学生：掲示及びホームページ

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科では、これまでの強みをさらに発展させ、「生命現象の包括的・統合的な理解」と「人類の福祉への貢献」の両立を目指し、本学はもとより、広く国内外から多彩な大学院学生を受け入れ、前期課程では、生命・環境・情報倫理、社会的責任についての深い理解とバイオ産業界の基礎的な状況や知識をもち、生命科学の広い領域を俯瞰し、各専攻領域の基礎的な研究力を身につけた人材を育成する。後期課程では、高度な研究者として研究を企画・実践する能力に加え、高度な実践的研究力をもった人材の育成、さらに高度な専門性を持った上で、企業、自治体、教育機関、研究機関などで活躍できる実践力を持つ人材を育成する。

新たな3専攻の特徴として、「脳生命統御科学専攻」では、こころとからだをコントロールする「脳」を中心に、細胞集団が生命を統御する仕組みについて教育研究する組織体制を構築する。また、ライフサイエンスの俯瞰区分のなかで「脳・神経」の挑戦的分野は「ヒトの理解につながる生物学、医療・福祉（疾患）、ヒトと社会」のいずれにも深く関連している。高齢化が深刻な現代社会において、健康や医療を通して人類社会に貢献できる人材の育成に取り組む。「生態発生適応科学専攻」では、生態学-発生学-進化学の新しいアプローチから生物の発生・再生から環境問題まで解明する。特に、多様な生命現象はゲノムと生物内外の環境との相互作用によって創出され、生命現象の解明には、ゲノム、個体、集団、生態系に内在する複雑な相互作用の解明が必須である。自然及び生活環境、化学物資から薬剤、栄養、他種との相互作用を含めた様々な環境や環境変動が細胞、組織、個体での発生現象へ及ぼす影響、さらには、生物集団、生態系への影響まで統合的に理解する新領域を目指す。「分子化学生物学専攻」では、低分子化合物から核酸やタンパク質を含めた生体高分子、さらに、これらの集合体が生体内で作用する機序を明らかにすることから生命現象の本質的な理解に迫り、これら分子が生体内ではたらく仕組みを解明するとともに、生命現象を制御する方法論の創出と分子とゲノムの利活用を目指す教育研究を行う。

今回の改組から新たに取り組んだ、専攻横断的な教育カリキュラム「バイオ人材育成カリキュラム」を設けて、各専攻において培った生命科学全般における基盤知識と高度な専門性に加えて、企業、起業、自治体、NGO、研究機関、教育機関など、バイオ産業界や自然や生命を活用した持続的社会的構築に対し、実践的に指導的立場で活躍できるバイオ人材を育成する計画をしている。この「バイオ人材育成カリキュラム」を開講するとともに、部局横断的な国際共同大学院プログラム「Data Science Program」と「Neuro Global Program」もそれぞれ順調にスタートし、多くの学生の参加・履修が行われている。

② 自己点検・評価報告書

- a 公表（予定）時期
 - ・平成32年頃 公表予定
- b 公表方法
 - ・外部評価を実施するため自己点検・評価報告書を刊行し、外部評価委員及び研究科所属の教職員に配布するとともに、ホームページ上に公開の予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成34年度までに評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年8月1日 ）

- (注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。